

テニス・ミュージアム

URL:<http://www.jta-tennis.or.jp/JTA/museum/index.html> Email:museum@jta-tennis.or.jp Phone: 03-3481-2321

(財)日本テニス協会テニスミュージアム委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館

終わりになきプロジェクトに寄せて

(財)日本テニス協会会長 盛田 正明

昔から「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」と言われます。世の中は進歩し変化して行くから昔の事は現在には役に立たない、と思われ勝ちですが、進歩しているのは人間が使う道具が飛躍的な進歩をしているだけ、残念ながら人間の本質は余り進歩していないのです。

従ってミュージアムと言うのは「過去の人を称える為のものではなく、過去の素晴らしい人達から現在の人が学ぶ為のものである」と私は思います。

四大会には夫々に素晴らしいテニスミュージアムが在って、そこを訪れる度に素晴らしい先人たちが、この世を去られた後も私達の心に何かを教えてください。

日本にも素晴らしい

先人達が居られる、この方達から学べるものが有ったらと思う事を「テニスミュージアム」と言う形で何とか実現しようと、JTAの中にテニスミュージアム委員会が出来、小田委員長を始めとして、ご賛同頂いている多くの皆様、特に尊敬する故・宮城黎子様のご遺志を継いでこの事に努力をされておられる事は、これからテニスを通じて何かを学ぼうとする方にとって本当に素晴らしい事だと思います。

此のプロジェクトには終わりは有りません。テニスを通じて超人的な努力をされた方が現れ、其の方達が後世に教えを残して行く、その方から多くの方が学び取り、そしてもっと素晴らしい方が現れる、こう言うトリガーにテニスミュージアムはなるのだと信じております。



楽天ジャパンオープン2009 歴史展示コーナーにて
左より：矢澤理事、浅沼常務理事、盛田会長、小田委員長

貴重な浄財に感謝

テニスミュージアム委員会委員長 小田 晶子

皆様、お元気で春のテニスシーズンを迎えられる事と思います。「宮城黎子記念・JTA テニスミュージアム基金」

を設立し、1年が経過いたしました。大変、多くの方々から貴重な浄財をお寄せ頂き有難く厚く御礼申し上げます。計画当初から賛同して下さった方々、初代委員長宮城黎子さんの熱い思いをご理解くださった方々、ご友人のお一人お一人に手紙を添えて趣意書をお送り頂いた方、等々、心温まる皆様のご協力のお蔭で6,479,215円(460件)の募金が集まりました。中期5カ年計画にある目的を実行に移しながら、将来のJTA テニスミュージアム(仮称)に繋がる事業として慎重に検討の上、使わせて頂きます。

テニスミュージアム設立の気運は、昭和初期の「テニス展覧会」(1934年、

日本庭球協会後援)以来何度か高まってまいりました。昭和後期の『日本テニス協会60年史』発行以降は日本テニス協会主催で「輝ける日本のテニス史展」(1988年以降)が開催され、1991年には「テニス博物館(仮称)素案」が準備されています。

2002年に発足したテニス資料館準備委員会(現、テニスミュージアム委員会)は各方面のご指導・ご協力を受け、一步一步活動を積み重ねて参りました。そして昨年初頭、基金活動を計画する段階では宮城黎子さんご遺志によるご寄付(800万円)をお受けし、活動に弾みがつきました。

基金は多くの方々の賛同を得て順調にスタートしています。今後また将来の「JTA テニスミュージアム(仮称)」実現を目指し、一日も早く常設の資料保管・閲覧室が設置できるよう委員一同努めて参ります。

皆様の末長いご支援と史資料所在情報のご提供を切にお願い申し上げます。

歴史から学ぶ

賛同者代表 宮城 淳



姉の黎子が日本にもテニスの博物館が必要だと言い出したのは、雑誌の編集の仕事でグランドスラム大会を廻るようになって、ウインブルドン展の展示などを見て考え始めた40年くらい前だったと思う。外国から帰って来る度にあそこのミュージアムには何があったとか、日本人の大先輩の写真があったのに何で日本には無いのかと耳にタコができるほど聞かされた。

私は現役の際は余り興味がなく、アメリカのホール・オブ・フェームのあるニューポート・カシノーにも1952年から4年間続けて試合で行ったし、二階の部屋に宿泊させてもらったが、その頃は未だ今のような展示はなかったように思う。

2001年の同時多発テロで足止めされていた時ニュージャージーの井上ご

夫妻に連れて行って頂き、46年振りに立派になった展示を見た。熊谷・清水さんをはじめ、諸先輩や私が戦った各国の選手の写真、古いラケット、昭和20年代にお世話になったボールのけば立て器など懐かしい物が沢山あって羨ましく思った。

日本のテニスの歴史は日本テニス協会をはじめ各団体や個人の記念誌など文章では随分整理され残っているが、形ある物や貴重な写真は毎年散逸して失われて行ってしまうのが現状である。

「歴史から学ばない民族は亡びる」と言われるが、テニス人口では超大国の日本にも立派なミュージアムが出来て、多くのテニスファンが気軽に見て学べるようになることを切に希望します。

宮城黎子さんの思い出

国際協力機構理事長 緒方 貞子



宮城黎子さんのご一家は、戦前から田園調布の私の実家に近くに住み、お父様が美しい花々や草木を大事に育てておられたが、お父様をはじめ、黎子さんも、妹さんの明子さんや弟さんの淳さんも、田園クラブでテニスを楽しまれるというテニス一家であった。

私もこのクラブで一緒にテニスをするようになったが、私の混合ダブルスのパートナーになってくださった鶴原謙造さんなどが、テニスのあと、しばしば宮城家に集まって麻雀をされたため、私までが宮城さんご一家と格別親しくなることができた。

黎子さんは、東京だけでなく、軽井沢でも、私の女子ダブルスのパートナーであった坂本すみ子さんのお宅に宿泊して、私どももテニスされた。また、私のニューヨーク滞在中には、ご一緒に全米オープンを観戦したこともあった。

数年前のこと、黎子さんと私は「ウインブルドン九州」（当時）という、

わが国でも珍しい芝を敷き詰めた文字どおりローンコートクラブにお招きを受け、私が名手黎子さんとエキシビジョン・マッチをするという光栄に浴したが、思えば、あのときがお元気な黎子さんとテニスした最後の機会となってしまった。

黎子さんは、ご自身がわが国を代表するすぐれたテニス選手であられただけでなく、いつも温かく後輩の指導に当たられた。現在わが国のテニス界において選手として、あるいは同好者として活躍している人達の多くは、直接間接に黎子さんの教訓を受けた後輩であるといっても過言ではあるまい。

今回テニスミュージアム設立を目指した基金創設にあたり、わが国テニス界に多大の貢献をされた黎子さんの遺徳を回顧し、あらためてそのご冥福を祈りたい。



(左から)

=北友クラブのメンバー=

3番目：宮城黎子さん、6番目：坂本すみ子さん、7番目：筆者、右端に鶴原謙造さん

ミュージアム設立への期待

関西学生テニス連盟会長 市山 哲



我が国テニスミュージアム設立の計画は誠に時宜を得たものであると拝察致します。

私は一昨年久しぶりにウインブルドンを訪れ、大会会場に隣接しているテニスミュージアムも見学する機会がありました。そこにはテニスの歴史を物語る資料や品々が展示されていて、館内はそれを見ようとする入場者で溢れていました。

ウインブルドンでの試合を観ていて思うことの一つは、観客のレベルの高さです。プレー中の緊迫感漂う静まり、好プレーに対する熱狂的な声援、不公正なプレーに対するブーイングなど、テニスに対する観客の深い理解と熱中を感じさせられます。また試合開始の何時間も前から5～6000人

もの人が入場券を買うために列を作っているのを見た時も、テニス愛好家のすそ野の広さをつくづくと思い知らされました。このような層の厚いテニス愛好家を生み出すにあたって、テニスミュージアムは伝統あるウインブルドン大会と相まって大きな貢献をしてきたのではないかと思います。

今まさに我が国にもテニスミュージアムが必要とされている時期ではないかと思います。

全国におられるテニス愛好の方々、展示された歴史的な品々や資料を見て、日本テニスの歴史や伝統、さらにテニスそのものをより身近なものとして理解されることでしょう。またこれから育っていく若い選手達は、我が国が生んだ過去の偉大なプレーヤーの戦績や人柄に触れ、そこから夢や勇気を貰うのではないかと思います。

テニスミュージアムの設立が我が国テニスの活性化に大きな役割を果たすことを信じて疑いません。

父・青木岩雄が残した ウインブルドンの映像

元東京ローンテニスクラブ会員 青木 花子
(写真はご夫君・故徹雄氏とともに)



長年手つかずだった古い荷物の整理をしたところ、父が昭和5年から5年間銀行員として赴任しておりました英国より持ち帰ったと思われる35mmのフィルムが出てきました。その頃は銀行の業務もおおらかだったらしく、仕事の傍らテニス選手としてあちらこちらのクラブで優勝したり、ウインブルドンにも出場しシングルスでは4回戦進出、ミックスでは英国婦人と組んで米国の第一シードを破り準決勝進出を果たしたほどでした。ウインブルドン開催中は一日も欠かさず見学していたようで、今回出てきたフィルムはその折り撮影したものだと思います。最近の優れた技術でDVDに再生していただき、75年前のマナー、服装、フォーム、ラケット等興味深い映像でした。また、当時ウインブルドンやデ杯に出場のため日本から来られた選手達を歓迎、サポートし、特にウインブルドンの準々決勝で佐藤・布井組がペリー・ヒューズの英国デ杯組を破り、決勝に進出した時には大変熱を入り応援したとの事です。その決勝の貴重なフィルム

もあり、ちょうど観戦されているジョージ5世のお顔も映っておりました。当時を懐かしく思って下さる方々が、もはやご存命でないのが残念ですが、このフィルムがテニスミュージアム創立のためにご尽力されているの方々のお役に立てれば、天国の父を始め選手の方々も喜んで下さると思います。



= 1933年、訪英のデ杯選手を迎えて =

前列左から：伊藤英吉、佐藤次郎、右端に布井良助のデ杯選手

後列左から3番目が青木岩雄氏、右端に安宅英一氏

(このたびは上掲写真および青木岩雄氏による観戦記もご提供いただきました)

～ミュージアム実現を目指して～

ジャパンオープンなどで歴史展示を継続

2003年～「写真で見る日本テニス史」、2004年～「テニス人形コレクション」、2005年「テニス雑誌の系譜」



2006年展示会場
「いま甦る名場面集」
・1933年「日本のテニス」
・1937年「日独対抗庭球戦」他



2007年展示会場
上：佐藤次郎特別展
(動画映像も公開)
下：懐かしのウッドラケットコーナー

※展示資料の貸し出しも行っていきます。
(カップなど借用品、一部例外品を除く)



2008年展示会場
上：日本テニス国際化の時代
・清水選手のウィンブルドン All-Comers
準優勝カップ
・熊谷選手のオリンピック日本初メダル
左：宮城黎子さん追悼コーナー



2009年展示会場
「日本テニスはじめて物語」
・四大会優勝カップなど
(全英単 All-Comers 準優勝：清水善造、全英複優勝：沢松和子 全米複優勝：宮城・加茂組 他)
「車いすテニスの歩み」
・ワールドチームカップ優勝杯など
右：初期のローンテニス用具一式
(横浜山手・テニス発祥記念館所蔵)

史資料の収集・整理とデジタル化 調査研究と発表、貸し出しなど



web 版テニスミュージアムで公開

TENNIS MUSEUM

—歴史の散歩道へ ようこそ—

【歴史物語】

- ・写真が語る日本テニス史
- ・日本テニス国際化の時代
- ・佐藤次郎の歩んだ道
- その他、映像資料、文献資料案内など

有明クラブハウス歴史展示コーナー



有明テニス・マネージメントチーム（日本テニス事業協会・東京港埠頭株式会社）と提携・協力し、クラブハウス1階コーナーで、「写真で見る日本テニス史」パネル、ジャパンオープン展示品（宮城・加茂組の全米ダブルス優勝、朝吹磯子さん、安宅登美子さん優勝カップ他）、沢松和子選手の全日本シングルス優勝、木製ラケット・プレス入り3本（坪川宣隆様）、同5本入りとW.T.TILDEN 著書（島村安彦様所蔵）他



映像・活字メディアへの
史資料提供、展示案内、
ミュージアム基金創設な
どトピックス記事掲載に
よる PR 活動

ミュージアムグッズ販売による PR 活動

- JTA ホームページ等でも販売しています。
- 絵はがき（4枚セット、500円）
- 小冊子『写真が語る日本テニス史』（300円）



■展示にご協力いただいた方々 一順不同一

秩父宮記念スポーツ博物館 熊谷和子様 清水光子様 佐藤忍様 渋川高校 伊藤英吉様 早稲田大学庭球部＝稲門テニス倶楽部 慶應義塾大学 一橋大学庭球部＝一橋庭球倶楽部 浜田山ローンテニス倶楽部 竹見康子様（財）徳川黎明会 吉田和子様（TTC） 宮城淳様 加茂公成様 岩村恵子様 横浜山手・テニス発祥記念館 朝吹常吉・磯子様ご家族 島村安彦様 坪川宣隆様 信澤建夫様 加茂幸子様ご家族 畠中君代様 中川英明様 高橋健三様 日本車いすテニス協会 テニスラケットメーカー各社様 他

[ご賛同いただいた方々]

多くの個人、グループ、クラブ、企業、諸団体の方々にご賛同いただき、ご寄付を受けました。
重ねて感謝申し上げます。

なお、個人情報保護のため、ウェブサイトでは
[ご賛同いただいた方々] (ご芳名一覧) の公開は控えさせていただきました。
どうぞご了承ください。

平成 21 年度

自：平成 21 年 4 月 1 日～至：平成 22 年 3 月 31 日

「宮城黎子記念・JTA テニスミュージアム基金」 会 計 報 告

平成 21 年度は 6,479,215 円の募金をお寄せいただきました。おかげさまで、映像フィルムのデジタル化、有明クラブハウスでの陳列ケース増設、そして広報資料の印刷など、将来のミュージアム設立に向けた準備活動を進めることができました。

その他、送料・通信費、振替口座徴収料、振込手数料、免税領収書発行手数料、事務用品等の諸経費および雑収入の収支があります。

その結果、平成 21 年度は 5,876,702 円を基金として積み立てることとなり、前年度の 7,759,000 円 (募金額 800 万円) と合わせて、基金の累計は 13,635,702 円となりました。

上記の通り、報告申し上げます。

－ 2010 年度活動の中間報告－

ジャパンオープン 2010 大会期間中 (10 月 4 日～ 10 日)
有明コロシアム東ロビーで、歴史展示コーナーを開催

展示テーマ：「日本のテニスはじめて物語」
～ 特別展示：杉山愛の軌跡・国枝慎吾の挑戦 ～

*

「日本のテニスはじめて物語」は
大会プログラムにも掲載されています。

*



【掲示板】

- 中期 5 カ年計画達成のため、引き続きのご支援をお願いします。
- 趣旨にご賛同いただけるご友人、企業、団体をご紹介いただきましたら、趣意書などのご案内を送らせていただきます。
- ご寄付、ミュージアムグッズご購入等の振込先：
郵便振替口座番号：00170-0-279241
加入者名：JTA テニスミュージアム委員会
免税領収書 (1 万円以上のご寄付) をご希望の方は、払込取扱票通信欄にご記入ください。原則として 6 月、9 月、12 月、2 月の月末に発行手続きを行い、翌月中旬に発送させていただきます。お急ぎの場合は随時ご請求ください。
- 古いラケット、文献など、テニス史資料の所在情報を求めていますので、委員会までご連絡をお待ちして居ります。

テニスミュージアム委員会

委員長：小田晶子 委員：岡田邦子、小林公子、武内勝、福田達郎、小林やよい

E メールアドレス：museum@jta-tennis.or.jp